

製造資本

資本強化の取り組み概要

デンソーではCASE進展を見据え、品質、コスト、納期においてあらゆる地域のお客様満足度を高めるためにグローバル生産体制を構築するとともに、世界トップクラスの環境効率や高い生産性にこだわった生産活動を行い、環境負荷を低減するなど製造拠点の進化を図っています。さらに、デンソー流のデジタルツイン工場として、「従来の強みである総智・総力による創造性」と「データに基づく科学的・合理的な分析」を組み合わせ、より大きな武器とし工場を進化させていきます。

目標KPI (2025年度)

設備投資額 **3,500**億円

CO₂排出量原単位 **50%**削減 (2012年度比、単体)

デンソーの製造資本の特徴 (2021年度実績)

設備投資額
3,539億円
CO₂排出量削減投資計画 1,000億円 (2022~2025年)

CO₂排出量原単位
48%削減 (2012年度比、単体)
2025年度目標である2012年度比50%削減に対して、
2021年度実績は48%削減

グローバル生産供給体制

デンソーでは、お客様の近くで製造することを基本原則に、北米、欧州、中国、インドを含むアジア、日本の5つの地域で、競争力の高い生産体制を構築し、世界中の生産拠点で「地域No.1の品質・コスト・納期の実現」と「変化に強いモノづくり」を目指しています。今後は、CASE進展に伴う事業ポートフォリオ入れ替えやカーボンニュートラル実現、さらには様々な供給リスク下でもお客様に安定的に製品をお届けするために、各地域・工場が果たすべき役割を明確化し、サプライヤーを含むグローバルサプライチェーン全体で、デンソー流モノづくりノウハウと生産資源を最大限に活かした強固なグローバル生産供給体制の構築を目指していきます。

モノづくりにおけるカーボンニュートラルへの取り組み

デンソーでは、「2035年モノづくりカーボンニュートラル達成」の目標に向けて、2021年に社内でカーボンニュートラルプロジェクトチームを立ち上げ、モノづくりの省エネ、創エネ、再エネに取り組んでいます。省エネの取り組みでは、F-IoTを活用したエネルギーの見える化、生産におけるエネルギーの無駄を削減する取り組みに加え、省エネ化に貢献するエコ設備・工法の開発、製品の開発段階からカーボンニュートラル思想を入れ込んだ非加熱の材料・工法開発を推進しています。創エネの取り組みでは、モデル工場として安城製作所、広瀬製作所、西尾製作所、株式会社デンソー福島の4工場を定め、「つくる、ためる、もどす」の様々な実証を開始するなど、目標達成に向けて確実な推進を行っていきます。

デンソー流デジタルツイン工場

デンソーはこれまでより良い製品・ラインをつくるために、日々全員参加のEF*活動による強固な製造基盤づくりを行ってきました。デンソー流のデジタルツイン工場でも「人が主役」です。現場のひらめきや創造性と、生産に関わるあらゆるデータを結び付けることで、さらなる現場での自発的な改善を促し、現場を日々進化させていきます。蓄積されたデータは工場内にとどまらず、製品設計・工程設計・設備設計におけるエンジニアリングチェーン上のデータや、材料・部品のサプライヤーからお客様までのサプライチェーン上のデータとつなげることで、開発～生産のスピードと柔軟性を強化していきたいと考えています。今後、社内での実証を通してデジタルツイン工場の構想を磨き上げ、デンソーグループ全体やサプライヤーへの展開を目指していきます。

* EF : Excellent Factory

